

# “鮮度一番！”

No.180

## ～女性と男性が支え合う社会をつくる～

CONTENTS

- 1～2 / 忘れない！東日本大震災 第4回
- 2 / ひとことコラム
- 2～3 / 運営委員会で話し合われたこと
- 3～4 / 参加報告
- 4 / わたしの回想記 その3  
川瀬さんからお知らせの続き 編集後記



### 忘れない！ 東日本大震災!! (5回連載の4回目)

菊池 恵子

「三条」へ

中継地点に着くと大型バスが8台。そこでは一緒にバスに乗ろうと待っていた人たち、報道陣がいました。「好きなバスに乗ってください。」「同じ所に行きたい人は身内同士など離れないで乗ってください」という案内がありました。とりあえず家族がまとまって乗り、行先を見ると『三条』『あっ、燕三条』、どのあたりだろう、何時間かかるのか？と考えました。

バスは千葉県から来ていて、千葉産の水が用意されていました。走行中に渋滞の列を見ると、ガソリンスタンドに並ぶ車です。並んでも入れられるのか、他人事ながら心配になりました。高速道に入り、会津、新潟と進んでいくと、雪が積もっているのに驚きました。途中、バスの中で「三条市長さんの計らいで、避難所に行く前に疲れをとるため、お風呂に入ってください」と案内があり、インターを降りてどんどん市街から外れていきます。テレビで見ていた雪国の景色が目飛び込んできて、本当にこんな所に風呂があるのだろうか、姥捨て山でこのまま置いていかれたらと、マイナス思考しかありませんでした。その矢先、運転手さんは道を間違えるし、不安は増します。ようやく「いい湯らてい」に着き、お風呂に入ってみたものの、バスがいなかったらと考えて、ゆっくり入っていただけませんでした。8台だったバスは4つの避難所、福祉センター、ソレイユ、サンファーム、体育文化センターに分かれて行きました。

私たちは体文でバスを降りました。辺りは真っ暗で、長い長い階段を荷物を抱えて上りました。ようやく辿り着くと、ふとんが一人ずつ用意されていたのには感激でした。本部前に場所をとり、「どこいしょ」です。市役所の方、報道関係者が来ていて、映りたくないのに隅でインタビューされている人たちを見ていました。全員が落ち着いてから、お弁当をいただきました。ありがたく、嬉しかったです。食事をする、ふとんに寝る、お風呂に入る、当たり前前の生活ができていたのに、ある日突然できなくなるとは考えてみませんでした。子どもたちに「こんな災害は二度とあってはならないけれど、自分たちが経験・体験したこと、たくさんの人たちの助けがあったことを忘れないで。逆の立場になったら皆さんの力になるうね」と話した記憶があります。三条の人たちはとても協力的で、ボランティアも100人待ちと聞いたときは驚きました。たくさんボランティアに支えられたと痛感しました。

翌日から班を作り、イベント参加など始まりました。避難所生活で私が何かできないかと考え「カットをさせてください」と市役所の方に申し出ると「OK！」です。1日数名できました。三条新聞に記事が載

った当日、シザーを持ってきてくださった方があり、嬉しくて言葉にならないほどでした。他にも美容室の方にカットクロス、霧吹きなど届けていただきました。

## ・・・ひとことコラム・・・

### ソチオリンピックが終わって

兼古和枝

最様々なドラマや伝説を残して、ソチオリンピックが終了しました。

涙と笑い、喜び、悲しみ、悔しさ・・・皆さんは、どんな場面が心に残りましたか？

新しいタイプのヒーローが生まれた！と私が感じたのは、羽生結弦選手でした。王子様キャラというよりお姫様に近いのではないかと思う程の可愛さと、時折見せる男らしいセクシーな表情のギャップに、全世界が虜になってしまいました。立役も女形も軽やかにこなすなんてズルい！最強ですよ。美しい少年がどんな凛々しい青年に成長していくか、楽しみで目が離せません。

結弦くんの4回転ジャンプほど鮮やかでなくとも、男女の魅力を合わせ持った人は、得点が高いです。料理の得意な男子なんて、モテモテですもん。起業してバリバリ稼ぐ男前な女子も増えています。男女の区別なく、なんでも器用にこなす若者が増えたのは、教育の成果でしょうか。

最後の定例市議会に、着物姿で現れた島田伸子さんが三條新聞に掲載されているのを見て、思わずニンマリ。さすが島田さん、女を忘れていないところが素敵です。猛烈な勢いで走り続ける姿に圧倒されながらも、チラリと見せる女性らしい発言や姿にホッとしていました。今後の活躍に期待を込めて、座布団一枚！

## 運営委員会で話し合われたこと

日 時 平成26年3月5日(水) (AM9:30~11:30)

場 所 男女共同参画センター

春です。♪春と言う字は、三人の日と書きます～(キャンディーズ)  
何となく一人では楽しくない私たち、おしゃべりも大事な「脳かつ」  
ですもの、おしゃれをして、まちへ出掛けましょう！

次回の運営委員会は、4月2日(水)9:30~男女共同参画センターです。どなたでもおいでください。



### 1.

#### 第9回ひとひとフォーラム(1/26・2/15)参加報告

三条市主催の上記フォーラムが、「防災と男女共同参画」というテーマで2回にわたって行われました。日本の男女平等指数が、2013年には、105位で、前年の101位、前々年の98位に続いてランクダウンしている現実から、ひとひとフォーラムの理念「ひと(女)と人(男)にかかる様々な課題について、広く市民が気づき、考えるきっかけとなる機会を提供し、男女共同参画社会づくりにつなげていく」を強く訴えるフォーラムであることを願っています。3~4ページに参加報告を載せましたのでお読みください。

### 2.

#### 映画「じんじん」三条市上映会ありがとう

三条女性会議 担当 西方久子

映画「じんじん」三条市上映会は、皆様のご協力のおかげで無事終了いたしました。  
平成25年2月試写会から各団体有志で準備委員会を立ち上げ、三条市市民窓口課(事務局)

と各団体有志(17団体)の官民一体で実行委員会を発足、平成26年1月31日～2月8日まで8回上映会を行いました。

映画鑑賞人数の目標2,000人!実鑑賞人数882人(前売券売上1,114枚)

女性会議の皆さんからも口コミPRで頑張ってくださいましたが、目標を達成できず残念!でも、ご覧いただいた方々からは「親子愛」良かったと好評でした(ネ)。

催し物は冬(雪)の寒い時期は難しく、会場(確保が大変)も大いに影響することを実感しました。(文化会館があったらいいなあ!と、つぶやいてしまう)

上映会の実行委員と運営従事者(約90人)として協力してくださった皆さんに感謝いたします。

### 3. 燕三条エフエム放送(ラヂオは～と76.8MHz)ワイワイ女性ひろば 毎週木曜11:30～12:00 再放送毎週水曜19:30～20:00

今年もめぐってきました。三条女性会議が担当する4月から9月まで、「ワイワイ女性ひろば」にお付き合いよろしくお願ひします。

4月は「市島教授のコミュニケーション講座」です。これは1月、2月に行われた新潟経営大学公開講座の講師、市島清貴教授をメインゲストに「エフエム版公開講座」なるものをお届けしようと考えています。とかく日本人は議論を好まず、言わなくてもわかるだろうというような、消極的なコミュニケーションであるらしいのですが、私たちの暮らしに密着した様々な例を挙げながら検証し、積極的表現方法を学んでいければと思います。

メンバー：市島清貴(新潟経営大学経営情報学部教授)

安室久恵、米田美智子、西方久子、野崎ミチコ、田辺とも子 (田辺)

### 4. 総会について

毎年5月末頃に行っている総会について話し合いました。

次年度は、2年ごとの役員改選の年ですので、お力を貸してくださる方がいらっしゃいましたら、事務局まで連絡をくださいますよう切にお願いいたします。記念講演会の講師には、数名の候補があり連絡をとることになりました。誰に来ていただけるか楽しみにしててください～(^-^)

### 5. その他

米田美智子さんより、2月のさんじょう白熱教室が、「クレーマー社会」で盛り上がり、その流れで3月のテーマは、「リーダー論」となったそうです。

毎月20日午後7時より三条東公民館で開催中です。参加費無料、老若男女どなたでもおいでください。

## 【参加報告】 第9回ひとひとフォーラム(1/26・2/15)参加報告

西方 久子

今年の「ひとひとフォーラム」は、昨年に続き防災について、テーマは「防災と男女共同参画」で1月26日と2月15日の2日間行われた。

1日目は、群馬大学理工学研究院環境創生部門 広域首都圏防災研究センター金井昌信さん「今、求められる自主防災活動～男女で築く緊急避難体制～」の講演。

東日本大震災や三条の水害などの事例をもとに、自然災害が起こってからの対策・対応より、住民主体の人が死なないための防災活動「緊急避難」の体制が重要と話された。

また、三条市内(第四中学校区)で水害対象の防災教育を実施されていると知り、私も子ども達と一緒に防災について基本から学びたいと思った。

2日目は、もりおか女性センター/センター長 NPO参画プランニング・いわて/副理事長兼事務局長 田端八重子さん「なぜ防災・減災・復興に女性の視点が必要か」の講演。田端さんの女性リーダーとして男女共同参画推進の活動・経験から、防災にも女性の視点が必要であり、災害時の問題点(避難所の問題・女性の生活支援・地域づくりなど)をわかりやすく話された。

また最後に、自然災害への備えとして、①自分の命は自分で守る②上手な受援者になること③「普段やっていないことは、いざとなった時にやれない」と、平常時の訓練と地域住民や家族間の話し合いが大切であると強調された。

これからは普段から防災について家族と話し合い、危機意識を高めたいと思う。

今年の「ひとひとフォーラム」は、男女共同参画の視点で大満足!の講演会でした。

## わたしの回想記

その3 2014

高波 三太夫



カラオケ愛唱会 これは栄公民館が立ち上げた事業で三年過ぎた。

地域の芸能祭。高齢にならって足腰の不便さがそうさせるのか、出番が少なくなり来賓席に居ると其れを感じさせた。カラオケを加える事を思いつき、粹に参加しないかと女性に呼びかけをした。ブームは衰えて居なかった。其れが地域の芸能祭を盛り上げてくれている。ある練習日。この人がと一瞬 意外に感じた。こんなやくぎに誰がしたんでえ ご存じ 験の母。名台詞を小粋に歌いこなした優しい女性、いや、会員。今で言う、裏社会、親に捨てられ一本刀の渡世人・・・・ この歌で時には思い出すものがある。・きみまる・ ではないが、あれから四十年。なき母の実家が新発田にある。冬山に見える限界集落二王子村。寂しくも見えるがスキー場があり、シーズンにでもなれば近郷のスキーヤーが楽しんでいる。今は定かでないが、その麓、しんしん降り積もる田んぼ道。子宝に恵まれない老夫婦が、養子を迎える と、言うことで運転をせがまれた記憶が忘れられない。板の間に薫むしろ。風除けに板戸代わりにこれも薫むしろ。一瞬今時と思ったが当時は僻地の風俗なのか、祖母とおぼしき人がどてらを羽織っておられ出迎えを受けた。

二言三言、打ち合わせて会ったのだろう。挨拶を交わし養子は車中の子になった。帰り際、カタンときしむ音は陰で見送る実母か(娘)、吹雪で轍が消えそうになり急いだ帰宅であった。

当時集団就職の時代。若い男女の過ちと車中でポツリ。数年たってその話題に触れたとき、謝罪を兼ねて二人の男女が連れて帰ったと聞く。それはよかった。本当に良かったと、自分はその子の成長を勝手に描くときがある。会わぬが花。知らぬが尚、花だ。想像楽しく膨らましている。

今頃は逆境越えて、何処かで、社長かも。現代は験の母は絵にならない。

暫くは 回想記 その3で閉じようと思う

川瀬弓子さんより

三条宝生会春の会 お知らせの続きが届きました。

プログラムのラフによると、私の仕舞「山姥」と太鼓「唐船」は午後からのようです。  
「唐船」は最後の番組になります。  
よろしくお願いたします。川瀬

編集後記：

春の陽気に誘われてなぜかウキウキ、3つほど若返った自分がいいます。今号の鮮度一番は、4ページにギュッとてんこ盛りの内容です。どうぞ隅から隅までお読みください。(原)

編集発行：三条女性会議・代表 野崎ミチコ

連絡先：三条市田島2丁目12-12 Tel 32-3667 FAX 32-3679

ホームページアドレス：<http://www.joseikaigi.net>